



「日々積み重ねている学びの先にあるもの」

校長 伊藤 潔

一学期がスタートして一か月以上が過ぎました。今年度のスマイルグループ（全校で4つの縦割りグループ）が発表され、お迎え遠足に行ってきました。また、本年度重点に挙げている英語学習では、CLIL学習（英語による統合型学習、日本人学校では本校が世界初）や特設英語（英語学科の大学生との少人数英会話学習）が始まりました。そのほか、インター校やグアム日本人学校、プノンペン補習授業校との交流学习、SFA（低学年の体力・仲間づくり活動）、デンタルクリニック校外学習（低学年の歯科保健指導）、校外室内プールでの全校プール学習など、様々な教育活動が動き出しています。

今年度初めて経験する私としては、目が回るような展開についていくのが精一杯ですが、つくづく職員集団の情熱と業務遂行能力の高さに感心させられる毎日です。そして何より、学校生活を生き生きと楽しんでいる子供たちの様子を見て、とてもうれしく思います。

先日、お話ワールドという取組もスタートしました。英語と同様に今年度の重点に掲げている国語教育の一環で実施しているものです。子供たちは自分が関心のあるテーマを決めて、みんなの前で3分間のスピーチを行います。人前でスピーチをするのは、大人でも度胸が必要です。どんな感じになるのか少し心配しながら、初日は中学生グループの様子を見学してみました。発表生徒はパワーポイントでプレゼン資料を準備し、身振り手ぶりを入れながら、ほとんど原稿も見ずに見事なスピーチを行っていました。スピーチする個人の能力はもちろんですが、子供たち同士の信頼関係が醸成されていないと、小中学生ぐらいの発達段階ではなかなかこのようなスピーチは成立しません。プノンペン日本人学校で先生方と子供たちが日々積み重ねている学びに間違いはないと、改めて思いました。



